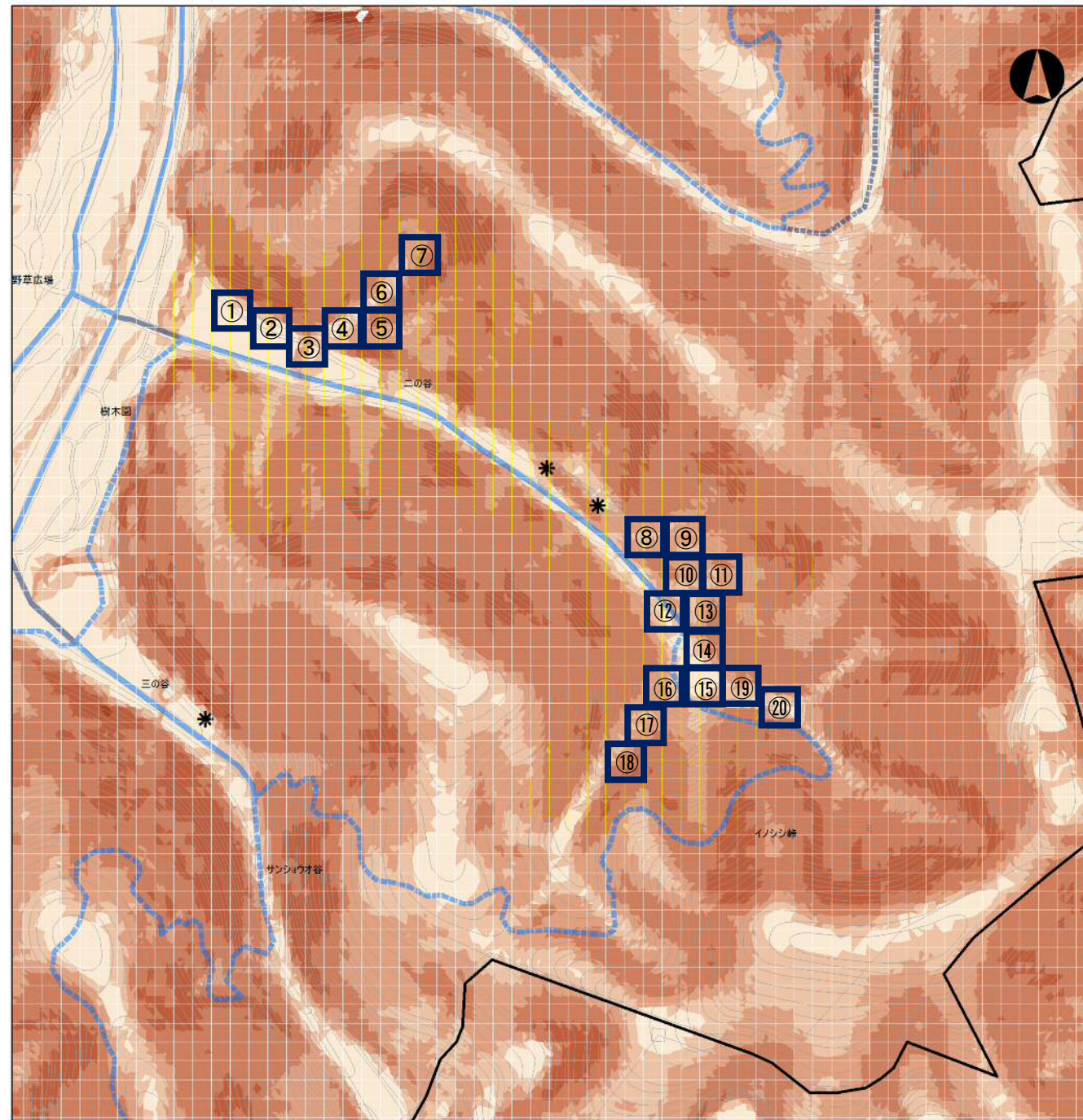


## V 管理規模について



### 1 管理規模

一作業区画 400 m<sup>2</sup> (約 20m × 20m) × 20 区画 (20 年分)

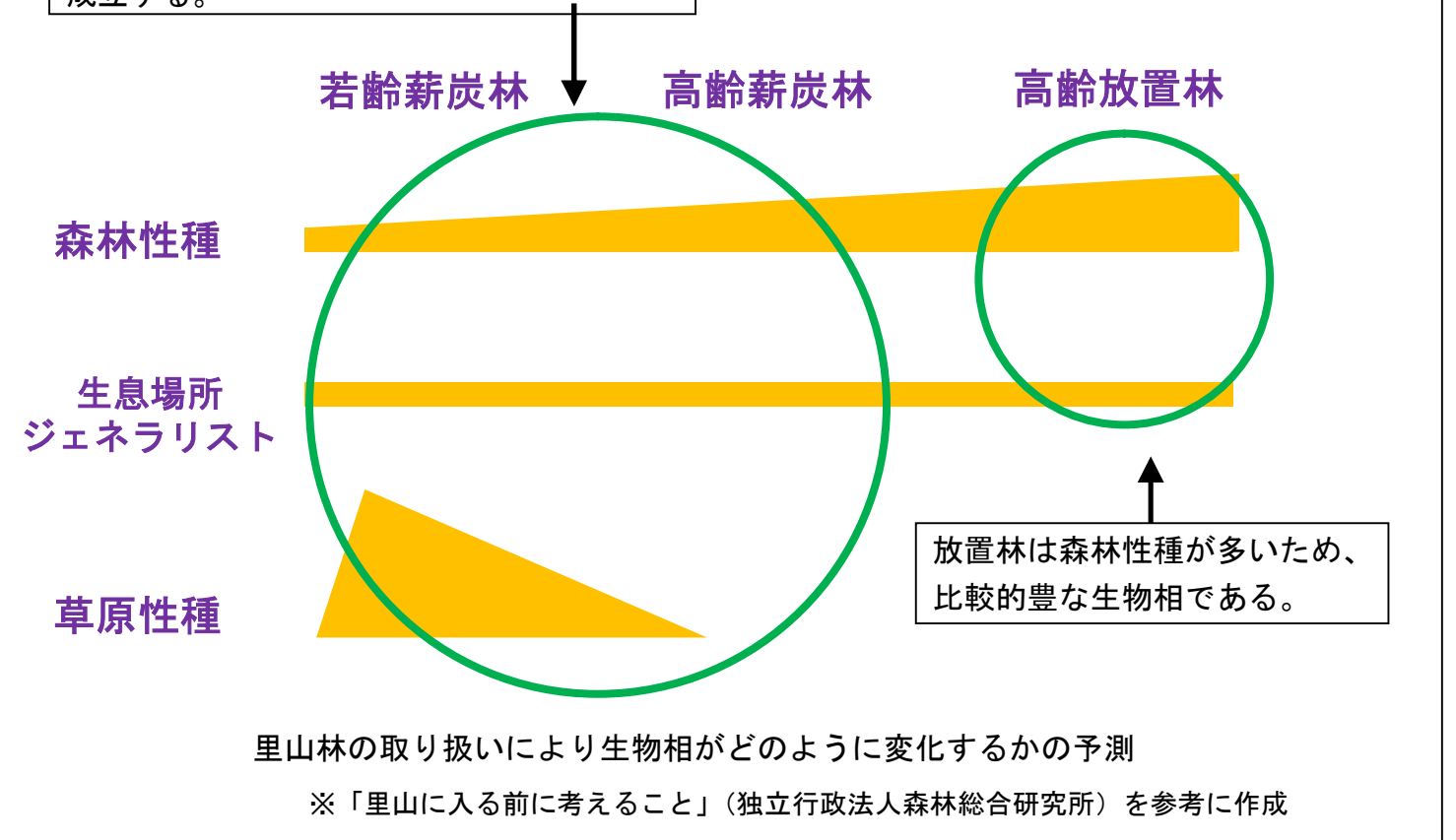


伐採による林内光条件の変化の効果が期待できる最小規模の面積

### 2 萌芽林 (薪炭林) 管理を 20 年間継続することにより予測される変化

草原環境、森林環境が段階的に存在することで生息生物種は多様となる。

薪炭林は林齢によって草原と落葉広葉樹林が数年で入れ替わるので、薪炭林地帯はモザイク環境となり、多様性の高い生物相が成立する。



### 3 公園利用に対する効果

- ・ 景観の多様化 ⇒ 散策の楽しさの向上
- ・ 森林環境の多様化 ⇒ 自然学習の場としての機能向上
- ・ 遭遇できる生物の多様化



予測される変化の「見える化」によりさらに効果を高めていく。